

# 平成家族考—家族を見続けるFPICからの提言—



編著 : 公益社団法人家庭問題情報センター  
 定価 : 本体 1,500 円＋税  
 判型 : A5 判  
 ページ数 : 300 ページ(本文 287 ページ)  
 ISBN : 978-4-906929-31-3  
 発行 : 平成 26 年 6 月  
 日本図書館協会選定図書

## 内容

公益社団法人家庭問題情報センター(FPIC)は、平成5年3月に社団法人として設立され、それとともに家庭問題情報誌「ふぁみりお」を20年間、定期的に刊行し、「平成家族考」、「海外トピックス」、「アラカルト」という特集を通じて、社会や家庭が抱える問題を投げ掛け、また、ときには解決のための提言を行ってきました。

本書は、社団法人設立20周年を迎えたのを機に、「ふぁみりお」に掲載された記事を厳選し、掲載された時期にとらわれず、「老人」、「夫婦」、「若者」、「親子」及び「未来」というカテゴリー毎に、それぞれの特徴を活かす構成としました。また、読者が当時の時代背景を意識しながら記事を読めるように、各章毎に掲載された時期を明らかにするとともに、記事を忠実に再現することに努めました。種々の統計も多く取り入れ、家庭問題に関する相談を担当する方たちにとっては、示唆に富んだ貴重な資料となっています。加えて、家庭問題について、関心のある一般の読者にとって興味深い記事も多く、人口の大幅な減少傾向が叫ばれている現代において、社会のもっとも最小単位である「家族」が果たしていく役割について、お考えいただければ幸いです。

## 目次

## 目次

第1部 平成老年考 ～人口減により高齢者は～	第3部 平成若者考 ～若者の意識は変わったか～	第4章 民法の一部改正について考えるー21世紀は再び「子どもの世紀」となり得るかー
第1章 人口超減少社会について考える	第1章 戦後60年の若者群像を見るーいつの時代も若者たちは大人を不安がらせて来たが…ー	第5章 離婚した親と子どもの声を聴くー「養育環境の変化と子どもの成長に関する調査研究」の報告書よりー
第2章 高齢者の意見をもとに高齢者の就労について考える	第2章 最近の若者論について考える	第6章 面会交流場面における子どもたち
第3章 少子化の社会的背景を各種統計から考える	第3章 少年非行は今どうなっているのかー平成20年版「犯罪白書」からー	第7章 高紛争家族の子の監護調整ーアメリカにおける新たな取り組みー
第4章 進化する老いについて考える	第4章 戦前の子どもにもかなりのワルがいたー管賀江留郎著「戦前の少年犯罪」(築地書館・2007.10)を読んでー	第8章 リロケーションは許されるか(アメリカ合衆国)ー子を伴う監護親の転居の是非ー
第2部 平成夫婦考 ～夫婦の絆がほどけるとき～	第5章 エリオット・レイトン著「親を殺した子供たち」を読み返す	第9章 共同監護について考えるー米国の実態からー
第1章 熟年離婚について考えるー長年の夫婦の絆か柵かー	第6章 赤ちゃんと心のキャッチボールをー乳児期の発達課題「基本的信頼感の獲得」について考えるー	第10章 子どもの幸せのために(2)ー諸外国の施策とわが国の現状ー
第2章 協議離婚について考えるー合意しておくべき事項とそれを守らせる手続きの確保ー	第7章 子どもを勇気づけ、やる気にさせる魔法の言葉	第11章 子どもの代理人ーアメリカ、ドイツの場合ー
第3章 第50号記念特集「ふぁみりお」が取り上げてきた家庭問題を振り返るー創刊第1号から第50号までの17年間の軌跡ー	第4部 平成親子考 ～親子であるとき、離れるとき～	第12章 養育費の履行確保ー諸外国とわが国の対応を比べるー
第4章 相談室から見た今どきの家族ー家族の再生を考えるー	第1章 再び問う、「いま日本の子どもたちは幸せか」ー「ふぁみりお」に見る子どもたちの世紀末ー	第13章 ハーグ条約加盟ー国境を越える子の奪い合い防止のためにー
第5章 海外の男女共同参画社会の実情ースウェーデン・スペイン・アメリカー	第2章 児童虐待はなぜ増え続けるのかーネグレクト(保護の怠慢)を中心に深刻化のメカニズムを考えるー	第5部 平成未来考 ～子どもの未来のために～
第6章 嫉妬!この度し難い心といかに付き合うか	第3章 いやされない傷ー児童虐待と傷ついていく脳ー	第1章 社団法人家庭問題情報センター設立20周年記念特別号ー子どもの最善の利益の実現に向けてー
第7章 大人の品格について考えるー自己愛社会にモンスター・ペアレントたちが登場ー		第2章 東日本大震災と子どもたちー愛する人や物を失った心の傷をどう癒すかー